

賛助会員功労賞

日本色彩学会賛助会員功労賞を受賞して

Received the Award from the Color Science Association of Japan

株式会社資生堂 みらい開発研究所

MIRAI Technology Institute, Shiseido Co., Ltd.

この度は、日本色彩学会第56回全国大会（山形大学米沢キャンパス）において、賛助会員功労賞を受賞し、感謝申し上げますとともに大変光栄に存じます。色彩学会に所属する皆さま、そして選考委員の先生方には感謝申し上げます。

私たち資生堂は、色彩の持つ力を信じ、長年にわたりその研究と応用に努めてまいりました。色彩は単なる視覚的な要素に留まらず、感情や文化、そして個々のアイデンティティに深く関わる重要な要素です。そして、化粧品領域においては、素肌を扱うスキンケア製品、彩を与えるメーキャップ製品の両方において、色彩は重要な要素であります。資生堂の研究員は、私たちの製品を通じて、色彩が持つ可能性を最大限に引き出し、世界中の人々に喜びと美しさを提供することを目指しています。

資生堂と日本色彩学会について、その歴史を振り返ると、資生堂は、1872年、日本初の民間洋風調剤薬局として東京・銀座で創業しました。1916年には新製品の開発と既製品の改良を担当する試験室が開設され、さらに1939年には化学研究所と規模が拡大されました。その歴史の中で、従来の物理化学的な研究に加え、皮膚科学を中心に、化粧品の安全性や有用性、化粧品の分析技術、容器材料の研究、そして心理学的な研究、色彩・色材を含めた総合的なアプローチをとるようになりました。それらの研究は、現在の資生堂グローバルイノベーションセンターへと引き継がれ、発展しています。

また、日本色彩学会は1948年、その前身である日本色彩科学協会が発足し、1970年に現在の日本色彩学会へと改称しました。それぞれ長い歴史があり、その中で資生堂と色彩学会の繋がりは深いものであったと感じております。

資生堂の初代社長である福原信三は、実業家であり、写真家であり、色彩に対しても深い理解と情熱を

持っていました。彼のビジョンは、資生堂の製品における色彩の美しさや効果を追求することに繋がり、同時に日本色彩学会の理念とも共鳴していました。

彼の理念は、「ヒトを彩るサイエンス」や「一瞬も一生も美しく」といったコーポレートメッセージとして受け継がれ、現在も、研究員一人一人が、美しさや健康を提供するための科学的アプローチを追求する原動力となっています。

両者の歴史と伝統は、常にその時代ごとの革新のつみ重ねともいえます。そして我々は今も、革新へ挑み続けており、現在では約120の国と地域で事業を展開しています。日本発のグローバルビューティーカンパニーを目指し、化粧品事業だけでなく、まだ見たことのない商品と新しい価値を創造し、美を通じて世界中のお客さまを幸せにする「ビューティーイノベーション」を実現します。

この度の受賞は、私たちの取り組みが認められた証であり、今後の活動への大きな励みとなります。これからも色彩学の発展に貢献し続け、革新的な研究、製品、サービスを提供することで、皆様の期待に添えてまいります。

最後に、日本色彩学会の皆様、そして日頃よりご支援いただいている皆様に心より御礼申し上げます。

ありがとうございました。



表彰式典の様子